

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名 (フリガナ)		
フリガナ) プンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) マワタリゼミナール
文京学院大学	経営学部	馬渡 ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) エスケイ ハン	フリガナ) サカモト スナオ	5	無
チーム SK 班	坂元 素直		

研究テーマ (発表タイトル)
生き抜く地域のかたち 新 CCRC の実現

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

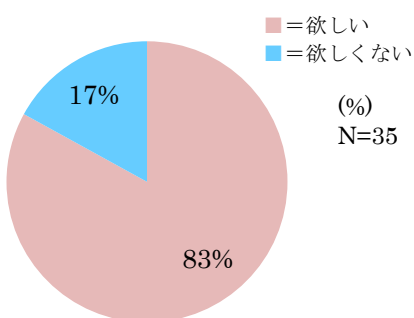
1. 研究概要 (目的・狙いなど)

現在日本は超高齢化社会と言われシニア層増加に伴い、介護産業規模が拡大している。シニア層の中には幸福を感じ日々を過ごしている人もいる一方で、普段から話す相手がいない、介護の心配、孤独死のリスクなど様々な不安を感じている人もいる。そこで、シニア層が幸せに一生を生き抜くために、CCRC (Continuing Care Retirement Community) という手法を利用し、多くの人々との関わりを持ちながら、人生最後の時期までを健康に過ごすことができる生活共同体を構想する。そして、この CCRC を応用し、大学でシニア層と学生をつなぐ関係を考察し、モデルケースを作ることをするを目的としている。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

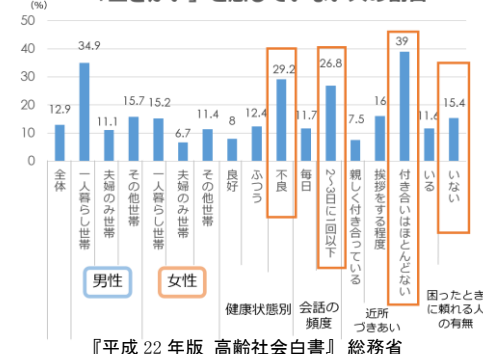
介護産業が拡大していることから介護に焦点を当てた。株式会社 ReDo 藤岡様へのヒアリングから一般的な介護施設は、施設内の状況の不透明さにより、地域と分断されていた。このことから、生きる目的をもてないシニア層の増加を生んでいた。このような悪循環となっている施設は閉ざされた介護施設である。それに対してシニア層のニーズを探るため、街頭インタビューを行なった。結果 (図 1) としては、不安もあげられたが、その他にも人とのかかわりが薄くなってしまふ、外に出る機会が少なくなってしまうなどが挙げられた。自分の活動の場を広げたいと考えている人が多くいること、身近に気軽に通える場所へのニーズが多くあることがわかった。これは、地域に開かれた環境に身をおきたいというシニア層の方の思いだと考える。そこに住む人同士が作用しあうことで

(図 1) 通える場所ニーズ



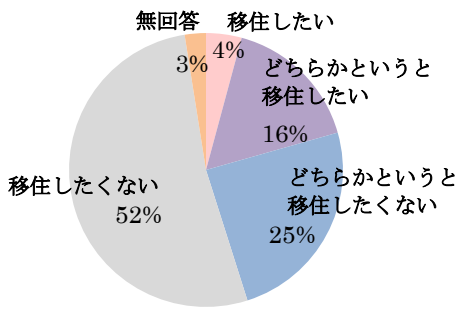
文京学院大学 SK 班街頭調査 2016 年 6 月 14 日実施

(図 2) 「生きがい」を感じていない人の割合



介護予防の観点から健康でい続けられることを CCRC が可能にできる。また、健康には (図 2) からわかるように、生きがいと健康には深い関係がある。生きがいを感じていない人は、頼れる人がいなく、会話の頻度が少ないと健康状態も不良になる割合が高い。つまり生きがいと健康には人との交流が不可欠なのだ。

(図3) 移住型 CCRC への反応



『定住・地方移住等に関する区民意識調査』2015年

CCRC で得られる効果はこれらに効果的に作用する。

本来の CCRC は今住んでいる自宅を離れ、多くの人と生活をともにする共同住宅施設に移住することが基本である。導入例として、「Share 金沢」というシニア層を始めとする大学生など多世代が支え合い、直につながりを持つことができる、街づくりの実現を可能にしている場所がある。しかし、CCRC 施設へ移住したいかのアンケート (図3) に対し、「移住したくない・どちらかというに移住したい」と答えた人が約 8 割いた。このことから、移住型でなく、「非移住型」の新しい CCRC を考えた。この非移住型 CCRC は、今の住居のまま CCRC の環境に身をおける。そこで、非移住型 CCRC に適した場所を大学で行なったらどうなるか仮説を立てたところ、大

学には地域に根付く長い歴史があるため誰にでも馴染みやすいということがあげられ、また学生や教授など様々な世代が大学に通っている。学生は減少傾向にあるが、学内施設は整っている。このように有効資源が多く存在していることで公的機関の総務省は学生や地域住民の人材育成など多くのメリットが挙げられる。文部科学省は大学・研究機関等の資源を活用して、持続可能かつ元気で個性豊かな地域を創ることができるといっていることから、CCRC の実施が可能な場所であると考えられる。

3. 研究テーマの課題

本来の移住型 CCRC に前向きでない人が約 8 割いるということを踏まえ、移住せず自宅から通うことができることを課題とし、新たに「非移住型 CCRC」を考え出した。また、シニア層に多くのつながりを持ってもらうためのプログラム作りを考えている。

4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

私達は GIVE&GIVE PROJECT を提案する。初回のケースとして文京学院大学での実施を考えている。この提案にあたって日移住型 CCRC の必要条件として「公共空間・コーディネーター・地域社会との交流と協働・健康づくり」の 4 つが挙げられる。まず公共空間には大学を設定し、経営学部の学生がコーディネーターとして運営を行う。地域社会との交流と協働は茶話会、ゼミ研究発表とティーチング・アシスト制度の導入をする。

5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

公共空間「大学」で CCRC をやることで得られるメリットは以下のように考える。

シニア層側のメリット	大学側のメリット	一般学生側のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・移住せず CCRC の環境に身をおける ・活動の場が広がる ・学生との積極的なコミュニケーション ・有用感を感じられる ・シニア層同士のつながるきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ戦略 ・有効資源を活用できる ・学校以外の使い方ができる ・地域コミュニティへの参加 ・学生へ学び提供 (人材育成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画を通して現状認知 ・多世代との意見交流の場 ・コミュニケーションスキルの向上 ・地域とのつながり ・人生経験を積める

コーディネーター機能「経営学部の学生」が担うことで、企画・組織運営力、主体性、コミュニケーション能力、将来的なビジネスリーダー、原理の応用など社会に出た時に即戦力になる力が身につくことが期待できる。

地域社会との交流と協働「茶話会、ゼミの研究発表、ティーチング・アシスタント制度導入」を行なう。交流面としてまず茶話会とは、地域に住む人々が集まり、町の歴史や世間話などをする。私たちは先日、椎名町で開かれた茶話会に参加させていただき、有用感、知識の広がり、世代間交流、地域への安心感といった効果を実感したことから交流の場として、茶話会を行なうこととする。茶話会の内容は、シニア層を特別講師として学生などに講義をしていただくことと、本学のゼミ生の研究発表を見ていただき意見交換を行います。それにより有用感を得ていただけるようなプログラムを考えております。交流面に加え、ゼミ研究をより良くすべく意見を出し合うことや、ティーチング・アシスタント制度といった大学の授業に参加し、授業内課題に対するアシストをってもらう仕組みを設け、協働面を行なう。

健康づくり「健康維持ができる環境の実現」先ほども述べたとおり健康には人との積極的な交流が不可欠であり、この GIVE&GIVE PROJECT に参加することで健康寿命を延ばし、介護予防につなげることが可能になり、将来的には国が負担する医療費が軽減するのではないかと考えられる。

6. 結果や今後の取り組み

課題解決策を実際に本学で実施した結果、特別講師として来てくださったシニア層の方から「非常に楽しい時間で、学生と関わることができて楽しかった」、参加していただいた地域の方からは「地域の人にもっとこの取り組みを知ってほしい」、ゼミ発表を行った学生からは「様々な世代からの意見を聞いて勉強になった」など、このような前向きな意見がもたらされた。また、本学の理事長から「学生にとっても学びたいというニーズがあることが知れたぜひとも協力したい」とのお言葉をいただけたので、今後は GIVE&GIVE PROJECT 継続していけるように本学のフィールドワークまたは 1 年生必修授業に導入を検討。ティーチング・アシスタント制度強化（育成）。地域と一緒に高齢者と学生協働でブランディングするコースの検討。第 2 回の茶話会の実施（決定済み）

7. 参考文献

[論文]

- ・高齢者の経済生活に関する意識調査 内閣府 (2014)
- ・高齢者の人口 - 総務省統計局 (2016.9.27)
- ・高齢者の日常生活に関する意識調査 内閣府 (2012)
- ・高齢者人口及び割合の推移 総務省 (2014)
- ・大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査 経済産業省 (2010.6)
- ・地域と介護施設の連携強化のために効果的な包括的介護サービス計画作成のための研究事業報告書
- ・東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学 分野辻一郎「日本版 CCRC のソフト面に関する考察」 (2015.5.14)
- ・豊島区役所「定住・地方移住等に関する区民意識調査 (2015)
- ・日本版 CCRC 構想を巡る状況 まち・ひと・しごと創生本部 (2016.5.14)
- ・文部科学省 教育基本法 (2016.9.27)

[Web]

- ・共生社会政策統括官 http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h16_nitizyou/19html/9.html (作成日不明)
- ・公益社団法人日本 WHO 協会『健康の定義』 <http://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html>
- まち・ひと・しごと創生総合戦略 -概要-<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/pdf/20141227siryou4.pdf> (2014.12.26)
- ・みずほコーポレート銀行資料
http://www.mizuhobank.co.jp/corporate/bizinfo/industry/sangyou/pdf/1039_03_03.pdf (2012.4.23)
- ・文部科学白書 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200901/1283098_004_01.pdf (2009.7.7)

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

特にありません。

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。